

「献身の勧め(1)」

1. はじめに

(1) 前回のメッセージ

- ①神学のない礼拝はない。
- ②礼拝のない神学もない。
- ③この言葉に感動した方々が多くいた(アンケート紹介)。

(2) 同じ意味で、神学のない実践はない。また、実践のない神学もない。

- ①パウロ書簡の特徴は、教理、そして、適用である。
- ②エペソ書:1~3章が教理、4~6章が適用。
- ③ロマ書の場合
 - *1~8章が教理
 - *9~11章がイスラエルの救い
 - *12~16章が適用

(3) きょうの箇所

- ①学んだ真理を適用するための基本原則が書かれている。
- ②それ以降の具体的な行為は、すべてこの基本原則から出てくる。
- ③ロマ12:1~2節ほど、神学的概念が盛り込まれた箇所は他にはないと思う。
- ④きょうは1節だけを取り上げる。

2. アウトライン

- (1) 学んだ真理の復習
- (2) 真理適用の基本原則

3. メッセージのゴール(クリスチャンの自己認識)

- (1) キリストのしもべ
- (2) キリスト教の神髄

このメッセージは、真理適用の基本原則を学ぼうとするものである。

I. 学んだ真理の復習

1. 接続詞に注目

「そういうわけですから、兄弟たち」(新改訳)

「こういうわけで、兄弟たち、」(新共同訳)

「兄弟たちよ。そういうわけで、」(口語訳)

(1) ギリシア語で「ウーン」、英語で「therefore」である。

① 聖研では、これがキーワードとなる。

② どこまで戻って考えるべきかを、吟味する。

③ 9~11章か。

④ 1から11章が正解である。

2. 12~16章は、神学的議論を基にした勧めである。

(1) 1~8章(神の義の神学)

① 義認(過去形の救い)

② 聖化(現在進行形の救い)

③ 栄化(未来形の救い)

「私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いも、権威ある者も、今あるものも、後に来るものも、力ある者も、高さも、深さも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません」(8:38~39)

(2) 9~11章(イスラエルの救い)

① イスラエルはイエスを拒否した。

② しかし、神の計画が挫折したわけではない。

* 彼らがメシアを拒否することは、旧約聖書に預言されていた。

* もし彼らがイエスを信じていたなら、イエスはメシアではないことになる。

③ 救いは、異邦人に及んだ。

* ユダヤ人も異邦人も、個人的なベースで救われる時代に入った。

④ 最後に、イスラエルは民族的救いを経験する。

(3) 以上の真理を踏まえて、適用に入る。

II. 真理適用の基本原則(1節)

1. パウロの勧告

「私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします」(新改訳)

「神の憐れみによってあなたがたに勧めます」(新共同訳)

「神のあわれみによってあなたがたに勧める」(口語訳)

(1) 「パラカロウ」という動詞が、1節の冒頭に出てくる。

- ①それだけでも、この動詞が強調されていることが分かる。
- ②この動詞は、呼ぶ、励ます、促す、強く勧める、などの意味がある。

(2) この動詞から、「パラクレイトス」という名詞が出てくる。

①ヨハ14:16、26、15:26、16:7

「わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです」(ヨハ14:16)

②「助け主」=聖霊

(3) 「パラカロウ」=「パラ」(そば) + 「カロウ」(呼ぶ)

- ①ここでパウロは、聖霊の働きを実行している。
- ②新改訳の「あなたがたにお願いします」では、弱い。
- ③直訳は、「あなたがたを呼び、励まし、促し、強く勧める」となる。

2. 勧告の土台

(1) 「神のあわれみ」である。

(2) これは、1~11章の要約である。

- ①信仰により義とされた。
- ②キリストにあつて数々の特権と祝福が与えられた。
- ③聖霊の内住が与えられた。
- ④神の命令に応答できる状態になった。

3. 勧告の内容

「あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい」

(新改訳)

「自分の体を神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい」(新共同訳)

「あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい」

(口語訳)

(1) 献身の勧め

- ①旧約聖書の背景がある。
 - ②「ささげる」は、「パラステイミ」である。
 - ③七十人訳:いけにえをささげるという動詞は、「パラステイミ」と訳されている。
- (2) からだを捧げる。
- ①からだは、内なる人の器である。
 - ②からだは、聖霊の宮である (1 コリ 6:19~20)。
 - ③自分の全存在を捧げる。
- (3) 「生きた供え物」
- ①旧約時代の供え物は、死んだ動物であった。
 - ②新約時代の供え物は、他の命を犠牲にしない。
 - ③それは、自発的な供え物である。
- (4) 「聖なる供え物」
- ①神のために選び分ち、ささげるがゆえに、それは「聖なる供え物」となる。
- (5) 「神に受け入れられる」
- ①自発的な供え物であるがゆえに、神に受け入れられるのである。

4. 勧告の結論

「それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です」(新改訳)

「これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です」(新共同訳)

「それが、あなたがたのなすべき霊的な礼拝である」(口語訳)

(1) 「霊的」、「なすべき」、「なすべき霊的な」

- ①ギリシア語で「ロギコス」である。
- ②「ロゴス」は、言葉、理性である。
- ③「なすべき」

* 神の恵みを熟慮した結果、全的献身は理性的な結論である。

* 英語では、「reasonable」「rational」な礼拝である。

④ 「霊的」

* 旧約時代のいけにえは、「殺されたいけにえ」である。

* 新約時代のいけにえは、「自発的ないけにえ」である。

* そういう意味で、これは「霊的」である。

(2) 「礼拝」

- ①ギリシア語で「ラツレイアン」である。
- ②奉仕のこと、キリストにあって行う業のすべてを指す。
- ③英語では、「service」がこれに相当する。

結論

1. キリストのしもべ (第2回目のメッセージ語った内容の復習)

- (1) クリスマンとしての献身は、キリストのしもべとなること。
- (2) しもべとは、ギリシア語で「デューロス」である。
 - ①奴隷のことである。
- (3) 奴隷には2種類あった。
 - ①自分の意志に反して奴隷となった者
 - ②自由意思に基づいて奴隷となった者
- (4) パウロが経験した3つのステップ
 - ①罪の奴隷から解放された。
 - ②自由の身となった。
 - ③自らの選択によって神の奴隷となった。
- (5) 「キリスト・イエスのしもべ」とは、逆説的言葉である。
 - ①最も不自由であるかに見えて、最も自由である。
 - ②最も低き所に降ろされたように見えて、最も高き所に引き上げられている。
 - ③最も弱い者になったように見えて、最も強い者にされている。
 - ④以上のことは、献身している者にだけ体験できる祝福である。

2. キリスト教の神髄

- (1) キリスト教の教理の中心は、「恵み」である。
- (2) キリスト教の倫理・道徳の中心は、「感謝」である。
- (3) 「恵み」も「感謝」も「カリス」というギリシア語である。